

事務事業マネジメントシート (21年度実績と22年度計画)

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 16 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 月 日 作成

事務事業名		介護保険高額介護サービス事業						☐ マニフェスト 関連 ☐ 全庁横断 課題関連 ☐ 集中改革 プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	健康福祉部	課長名	後藤博康	
	施策	16	高齢者・障がい者の自立促進と社会参加				所属課	高齢者支援課	担当者名	緒方寿雄	
	基本事業	50	高齢者支援体制の充実				所属班	高齢者保険班	(内線)	2116	
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	介護保険法		成果優先度評価結果	12
		30	2	4	1	10482				コスト削減優先度評価結果	-
終了、開始年度		☐ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	介護保険対象サービスを利用したときに、自己負担額が一定の上限額を超えた場合に支払う制度で、平成12年4月1日制度発足と同時に事業を開始した。。平成17年10月1日法改正に伴い、施設サービス利用者が負担軽減のため住所異動、世帯分離等の手続きを行ったことで高額の対象者が増加した。さらに平成18年4月1日法改正された所得段階の見直しにより、負担上限額が最も低い段階に移行した利用者が大幅に増加したことで、支給額が飛躍的に伸びている。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	①毎月20日頃、高額介護対象者一覧データ(取込処理)を国保連より伝送受信。 ②対象者一覧中、新規又は未申請者に対し、勧奨通知。(決定者に死亡者がいた場合は家族に相続人申立書を送付) ③翌月10日頃めに新規申請者分を入力し、前月までの自動申請者と併せて国保連合会にデータ送信。 ④同月20日国保連合会より、判定結果受信、内容確認のうえ、対象者に決定通知書の送付。
【主な予算費目】	負担金
【意見や要望】	これまでは手続きが面倒であるとの指摘があったが、17年4月に1度の申請ですむようになったことから、申請漏れがほとんどなくなり事務手続きも簡素化されたため、利用者からは歓迎されている。 高額に始めて該当された場合申請書を送付しているが、意味が分からずに電話の問い合わせが多くある。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)	22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
支給件数 延べ4,886件 支給金額 市:54,929,362円 連合会:1,895,311円 計50,305,134円 支払いに伴う事務費 通信運搬費:240,000円 計240,000円	支給件数 延べ5,593件 支給金額 市:62,886,450円 連合会:2,412,984円 計65,299,434円 支払いに伴う事務費 通信運搬費:312,000円 計312,000円
④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標	(単位)
→ ア 高額サービス対象件数(月平均)	件
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)
介護保険サービス利用者	人
→ ア 介護保険サービス利用者数	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)
介護サービス利用者負担の軽減を図る。	千円
→ ア 高額介護サービス費の支払額	千円
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠	
意図の介護サービス利用者負担の軽減を図るためには、高額介護サービス費の支払額が指標となるため。高齢化に伴い、介護認定者が増加していることから、給付額も増加すると思われるため。	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込
④ 活動指標	ア 件	件	355	362	380	407	415	458	500
⑤ 対象指標	ア 人	人	1280	1371	1410	1480	1550	1620	1690
⑥ 成果指標	ア 千円	千円	43132	50305	50400	56635	65300	67916	70637
投資入量	事業内訳	国庫支出金	千円	11,019	11,286	11,262	12,639	14,686	15,811
		都道府県支出金	千円	5,391	7,604	7,638	8,425	9,801	10,552
		地方債	千円						
		その他	千円	21,331	25,157	25,061	28,584	32,485	34,973
		繰入金	千円	5,391	6,532	6,762	6,987	8,943	9,301
		一般財源	千円				288		
	(A) 事業費計		千円	43,132	50,579	50,723	56,923	65,612	67,916
	(A)のうち指定経費		千円						
	(A)のうち時間外、特勤		千円						
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	2	2	2
		延べ業務時間	時間	531	733	735	220	220	220
投資入量	(B)人件費計		千円	2,108	2,932	2,925	876	876	876
	トータルコスト(A)+(B)		千円	45,240	53,511	53,648	57,799	66,488	71,513

総トータルコスト
 全体計画
 ~ 年度
 (期間限定複数年度のみ記載)
 0
 0
 0

谷志市

事務事業名	介護保険高額介護サービス事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	----------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (SEE)

*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した	☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】	☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

高齢者世帯での年金受給のみの生活で介護サービスを必要とする人に対する生活基盤の安定にはかなりの成果がある。しかしながら、重度要介護者の単身世帯や施設入所者に対しては当制度の勧奨を行なっても、理解できないことや勧奨通知自体に目を通さない人が少数ながらいる。そういった場合に施設のケアマネージャや地域の民生員等と協力して未申請者を減らしていく工夫が必要である。(H22.3現在未申請者6名(死亡含む))

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						